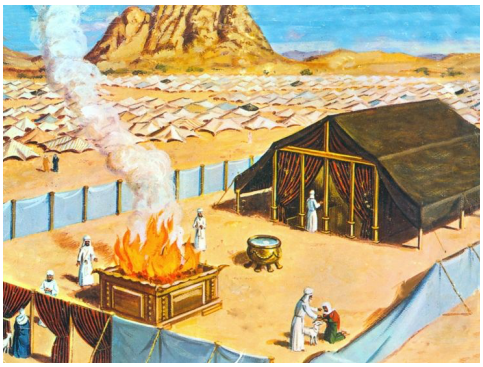
אוֹר

光（אוֹר オール）と影（צֵל ツェール）

ヨハネ1:1～5 初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。この方は、初めに神とともにおられた。すべてのものは、この方によって造られた。造られたもので、この方によらずにできたものは一つもない。この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。光はやみの中に輝いている。やみはこれに打ち勝たなかった。

聖書の中で光（אוֹר オール）と関連して、調べてみるべき重要な部分が幕屋（מִשְׁכָּן ミシュカーン）である。出エジプト記25章を見ると、神様はイスラエルが聖所（מִקְדָּשׁ ミクダッシュ）を造るなら、その聖所（＝幕屋）に住むと神様は言われている。



出エジプト記 25
1 【主】はモーセに告げて仰せられた。～中略～
8 彼らがわたしのために聖所を造るなら、わたしは彼らの中に住む。9 幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。

8節には、彼ら(イスラエル)が聖所を造るなら、彼らの中に住むと神様が言われているが、それは、神がモーセに命じて造らせた幕屋（מִשְׁכָּן）に神がご臨在されることを意味するが、また、神のご臨在の場所（מִשְׁכָּן）である幕屋は、新約聖書のヨハネの福音書1章14節の御言葉とも関連がある。

ヨハネ1:14 הַדָּבָר נִהְיָה בָּשָׂר וְשָׁכַן בְּתוֹכֵנוּ（ヘブライ語）

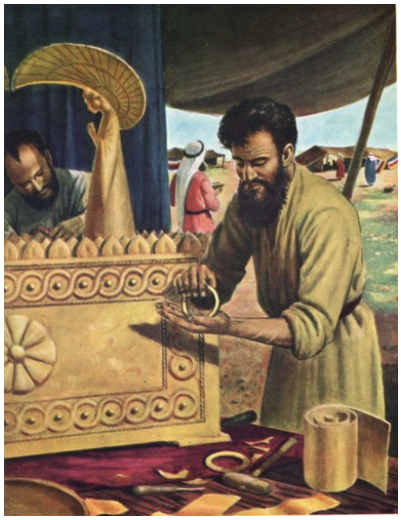
ヨハネ1:14 ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。（שָׁכַן シャーハン）私たちはこの方の栄光を見た。父のみもとから来られたひとり子としての栄光である。この方は恵みとまことに満ちておられた。

ことばが人となって、すなわち、イエシュアが人となって私たちの間に住まわれた。このことばは光であるとヨハネは語っている。

ヨハネ 1:4 この方にいのちがあった。このいのちは人の光であった。

詩篇119:105 あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。このことば、この光が人となって、私たちの間に幕屋を張ったとヨハネは語っている。ヨハネの福音書1章のこのみことばは出エジプト25章8節に繋がっているのである。

光があれば、かならず存在するのがある。それは、影であるが、影は本体を現すものである。私たちは、教会で一般的に影は不完全なもの、又は、これから来るものを現す、前ぶれであると学んできた。しかし、この考え方はあまり、聖書的とは言えない。幕屋は天にある本体をこの地上に反映する影であるが、その本体、すなわち、天にある幕屋をそのまま反映しているものである。神様がモーセに命じられ、造らせた幕屋を実際に造るために、召された人がいる。出エジプト記31章1～3節



出エジプト記31:1～3【主】はモーセに告げて仰せられた。「見よ。わたしは、ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツァルエルを名ざして召し、彼に知恵と英知と知識とあらゆる仕事において、神の霊を満たした。

בְּצַלְאֵל

בצלאל

ベツァルエルである。　ところで神様はこの幕屋をどのように造れと言われたのか。出25章9節を見ると**「幕屋の型と幕屋のすべての用具の型とを、わたしがあなたに示すのと全く同じように作らなければならない。」**とある。ここに、**「わたしがあなたに示すのと全く同じように」**とあるが、日本語で**「示す」**と訳された部分のヘブライ語は**（רָאָה　ラーアー）**である。すなわち、見せるという意味だから、「わたしがあなたに**見せる**のと全く同じように」ということである。

神様はモーセに何を見せてくださったのか。それは天にある幕屋、その本体を見せてくださったのであり、それと全く同じように造りなさいと言われたのである。天にある本体を完全に反映するものとして造りなさいということである。そして、この幕屋を実際に造る者として、ベツァルエルという人を名指しで選ばれたのである。それでは、このベツァルエルという人物は誰なのか。また、どうしてこの人が選ばれたのか。たまたまではもちろんないし、彼が手先の器用な人だったからでもない。このベツァルエルこそが、神様が幕屋を造らせるために備えておられた器であったからである。彼の名前がそのことを物語っている。

ב　צל　אל

神　　影　　～中に（家）

出エジプト記31:2 見よ。わたしは、ユダ部族のフルの子であるウリの子ベツァルエルを名ざして召し、

「ב　ベ」は「～の中に（或いは、家）」「צל　ツェル」は「影」、「אל　エル」は「神」である。すなわち、「神の影の中に」或いは、「神の影の家」という意味である。

このベツァルエルという人の名前自体が、この人が幕屋を造るべき人であることを表している。この名前はこの人が神様の全てのことをこの地上にそのまま反映させる（影）という召しを受けた者であることを表している。

ところが、ベツァルエルという人の名前の前には、もう一つ彼を説明する言葉がつけ加えられている。「ウリの子ベツァルエル」ウリの子という言葉である。すなわち、ベツァルエルはウリの子であるが、先程言ったように、光があれば、必ず存在するのが影である。だから、本体である神の天の幕屋をこの地上に造る者であるベツァルエルは必然的に「ウリの子」でなければならない。

ベンウーリー　「ウーリー」は「私の光」という意味で、「אוֹר　オール」が語根である。「ウリの子ベツァルエル」は神様が地上に、ご自身の住まいである「幕屋」を造らせるために既に選ばれていた者である。それでは、影の役割は何か。

私たちは天の本体の影であるこの地上の幕屋を、これから来る完全なものを表す予表として、不完全なものだと考えがちだが、そのような観点から幕屋を見るならば、見逃してしまう部分がある。それが、影の役割であるが、影は過去でも、未来でもなく、今現在を意味する。影と本体は切っても切れないひとつ（אֶחָד）であり、本体と同じものである。ところが、この影は光があってはじめて造られるものである。ベツァルエルはウリの子として、神の影の中で、神の影の家を造るものであったのである。神の影の家を造る者であるベツァルエルは、その名の通り、神を完全に顕す者を象徴する人物である。

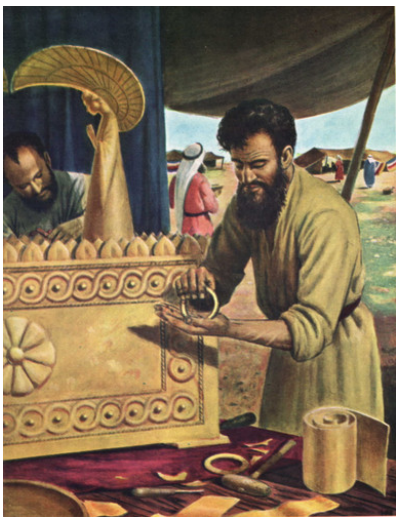
בְּצַלְאֵל ベツァルエール

בְּצַלְאֵל

30＋1＋30＋90＋2

↓

153



ところで、興味深いことがベツァルエルの名前にはもう一つある。それは、「ベツァルエル」という名前が持つゲマトリア（数字の値）であるが、それが、「153」であり、「153」という数字の値は、「神の子供たち」という言葉が持つゲマトリアと同じであるからだ。

בְּנֵי הָאֱלֹהִים ベネー・ハーエローヒーム

בְּנֵי הָאֱלֹהִים

40＋10＋5＋30＋1＋5　10＋50＋2

↓

153

ヨハネ10:30 わたしと父とは一つです。（אֲנִי וְהָאָב אֶחָד אֲנַחְנוּ）

ヨハネ14:9 イエスは彼に言われた。「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。

神の子供たちとは、父である神様をそのまま反映する者たちである。イェシュアがまさに神の子どもの代表であり、父をそのまま反映されるお方なのである。